

令和2年度 医学部医学科新入生の皆様へ

新入生の皆さん、北海道大学医学部医学科への入学、おめでとうございます。医学部教職員一同を代表してお祝い申し上げます。希望に胸を膨らませ喜びに目を輝かせている皆さんをお迎えし、本日、ここにガイダンスを挙行できますことを大変嬉しく思います。

北海道大学医学部は、1919年に北海道帝国大学医学部として設置されました。昨年、創立100周年を迎えた我が国屈指の歴史と伝統を誇る医学部であります。すでに1万名を超える卒業生が巣立ち、約6,500名の同窓生が日本全国はもとより世界各地で活躍しております。皆さんは医学部医学科第102期生として、これから医学を学んでいくこととなります。

まず、皆さんに北海道大学医学部医学科の学生として、「医学を学ぶこと」についてお話ししたいと思います。

北海道大学医学部医学科は、ただ単に医師の養成を目的にしているわけではありません。優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師ならびに研究者の養成を目指しています。また、これは国民から期待されている使命でもあります。

北海道大学医学部に所属する皆さんには、これら目標の具現化という国民から負託された大きな使命があることを肝に銘じてください。現在、世界最高レベルにある日本の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先輩によって、築かれてきたものです。皆さんはこれから、この使命を果たしている多くの先輩に出会い、刺激・指導を受け、そして立派な医師に育っていくでしょう。それに向けて3つの事柄をお伝えしたいと思います。

まず、第一に皆さんは幅広い基礎学力を身に付けなければなりません。広く堅固な裾野があってはじめて高い山が存在しうるように、医学とその実践である医療もしっかりとした土台無しに高みに到達することはできません。

第二に国際性を身に付けて下さい。国際性の涵養は北海道大学の基本理念の一つでもあります。グローバル化が進展する今日では、昨今の新型コロナウイルス感染症のように医学研究や医療の実践にも国際水準ならびに国際協働が求められています。医学部の教育目標には地球規模で貢献できるグローバルな人材を育成することをも包含されています。では、グローバルな人材とはどのような人材でしょうか。重要な要素として、コミュニケーション手段として一定の英語力はもちろん、幅広い教養や専門性を持ち、多様な人種や文化を理解して受け入れ、自主性と協調性の双方を持って行動できることが挙げられます。これら国際性の涵養には、自然科学、人文科学、社会科学が必須です。ですから、まずは、基礎教養科目をしっかり学んで幅広い教養を育んで欲しいと思います。

第三に、医師にとって不可欠な、温かい思いやりの心と病める人を包容できる豊かな人間性・高い倫理観を培わなければなりません。

北海道大学の教育理念に掲げられているひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志（こころざし）の調和のとれた人」と理解されています。北海道大学は、皆さんもご存知のように札幌農学校をその起源としています。1876年、札幌農学校の初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク博士は、多くの細かな校則を排して、「紳士たれ」の一言を校則とし、学生達の自律心、独立心を目覚めさせ、個の確立を促しました。自律心、独立心を持った個の確立を目指す自由な人間教育、これがまさに北大の全人教育の礎となったのです。そして「全人」となるべく、なによりも大切なことは、医学に対する謙虚さと誠実さであります。医学部医学科の学生に相応したプライドと共に、謙虚で誠実であることを忘れてはなりません。

最後に、札幌農学校の初代教頭であったクラーク博士が唱えた“lofty ambition”（高邁なる大志）という言葉は世紀を超えて北海道大学を揺るぎなく支えてきた理念であります。この言葉を大切に、大きな夢と高い理想を持ち、自らの持てる能力を最大限に発揮することを心がけ、自然に恵まれた広大なキャンパスで学生生活を謳歌していただきたいと思えます。皆さんが揃って医学部第102期生として卒業し、信頼される医師として巣立っていられることを祈念しています。

令和2年4月3日

北海道大学医学部長 吉岡 充弘